ふみくら

No. 69
2002. 7. 25
早稲田大学図書館報

鐘岱愛鷹之記（部分）

《目　次》

韓国図書館訪問記……2
奥村　佳郎（総務課）
ILL（図書館間相互協力）の拡大……4
三浦　育子（総合閲覧課長）
2001年度システム統計……6
学術情報課
WINEへの日本語雑誌データの入力……8
雑誌運用検討WG
研究書庫の資料再配置……10
図書課
2001年度下半期　展覧会報告……12
展示部会
政経・法・教育学部学生読書室のWINE参入と利用の共通化……14
高額資料選定結果　2001.9－2002.3……15
資料委員会
図書館日誌……16

韓国図書館訪問記

―高麗大学校図書館との図書館間協力に関する覚書取り交わしまで―

奥 村　佳 郎（総務課）

2001年９月10日～11日、浦川館長と中元総務課長、奥村（総務課）の３名で韓国ソウル市の高麗大学校図書館ほか、国立国会図書館、国立中央図書館、梨花女子大学校図書館を訪問した。

今回の訪問の直接のきっかけとなったのは、同年７月２日に、本校の訪問学者であった朴京子(Park, Kyung-Ja)高麗大学校図書館長が当館を訪問され、浦川館長との会談において、これまで長く交流のあった両図書館の協力関係をより緊密で実効性のあるものにしたいとする点で意見が一致したことである。

さっそく同年８月27日～９月１日の間、朴館長はじめ任愛敬（Yim, Ai-Kyung）整理課長、宋炳国閲覧課長（Song, Byung-Gook）が来館され、当館からの案内により国立国会図書館、東京大学附属図書館、慶應義塾三田メディアセンターを訪問された。特に朴館長は各大学における修士・博士論文（全文）の電子化状況に強い関心をお持ちであり、せいぜい目次のデータまでで全文の電子化までには至っていない日本の学術情報の電子化状況に少々首をかしげておられ、その電子化の重要性を強く訴えておられたのが印象的だった（韓国の状況については後述)。また、特に当館訪問に際しては、当館での韓国語データベース利用者への一助にと、韓国語Windows搭載のノート型パソコン１台をご寄贈いただいた（その後総合閲覧課内に設置された)。

そして早稲田大学図書館から冒頭に記したとおりの訪韓が実現し、高麗大学校を訪問した。その際には、当館からの返礼として日本語Windows搭載のノート型パソコン１台を寄贈した。お互いの言語のWindows搭載のパソコンを交換する発想は高麗大学校側のものだったが、同じWindowsであればどの言語版を使ってもそう大差ないという視点とはいささか異なる、実際に人の手を介するコミュニケーションの象徴的な意味合いも込められていた。訪問した時点において、日本で購入したパソコンで韓国語のページを開き韓国語の検索語を入れて韓国語のデータベースを検索することが容易ではない、という状況においては、この物々交換もそれなりの意義があった。

朴館長一行が来日された折は当館側としても最善を尽くしたつもりだったが、私たちが高麗大学校図書館を訪問した際の先方の対応はそれを遥かに凌駕するものであった。すべてを言い尽くし難いがとても親身に対応していただいた。図書館情報学で博士号をもつ方（Bang）部長の案内で、国立国会図書館、国立中央図書館、梨花女子大学校中央図書館を見学することができた。国立国会図書館では図書館長主催の昼食会が開催され、館長のご親戚が早大に留学されていたという親近感も手伝ってか次に国立中央図書館へと向かう私たちに館長専用車が貸し出されるという一幕もあった。

韓国の図書館における電子情報社会への対応

電子情報社会への図書館の対応ということに関しては、巨大なインフラの整備を前提条件とするところもあってどうしても国の関与の仕方が大きく左右する。韓国では「国家デジタルライブラリー計画」という国家主導の大型プロジェクトが1995年から進められており、国立中央図書館、国立国会図書館、法院図書館、産業技術情報院、研究開発情報センター、教育情報院といった情報関連機関がそれぞれが所蔵する資料の特徴をふまえた上で分担して資料を電子化している。社会科学分野の修士・博士学位論文の全文電子化などは国立国会図書館の分担として進められており、オンライン目録の整備は、大学図書館については教育情報院（KERIS）により日本の情報学研究所（NII）とよく似た体制でオンライン共同目録の運営が成されている。公共図書館については、国立中央図書館を中心としてKOLISという全国の公共図書館を結ぶネットワークが構築されており、機械可読目録（MARC）としてはKOMARCが作成され全国

の図書館に提供されている。館種により管轄する部署およびネットワークが違うものの基本的には役所中心の電子化推進体制である点において日本と似ているが、全体的な整合性があるようにも感じられた。国全体として図書関連データベースの電子化を推進する勢いのようなものを感じた。

高麗大学校図書館

高麗大学校は、本学が1973年に韓国ではじめて学術・学生交流協定を締結した名門私立大学であり、本学はその後、ソウル大学校、延世大学校、梨花女子大学校をはじめ韓国内で計17の大学等と同協定を締結している。

ソウル市北東部に位置し、学部学生約25,500名、大学院生約7,600名を数える。創立100周年にあたる2005年を間近にひかえ、記念事業としてデジタル資料を専門に扱うデジタル図書館の建築も進めている。中央図書館（新館・旧館）のほかに、科学図書館、医学図書館と郊外の瑞倉図書館があり、165万冊の蔵書がある。1989年には当館より同大学図書館に寄贈本等のうち本館蔵書との重複和書約9,000冊を寄贈し、同年、当時の奥島館長と今井事務長が同館を訪問した経緯がある。

私たちが訪問した頃はちょうど新学期にあたることもあり図書館内は活気に包まれていた。実際、1日あたりの利用人数は1万人におよぶという。1階入口には四つのコーナーにそれぞれ別の書店が本を並べており、利用者がそこから本を選び出して図書館に購入を推薦するといった企画コーナーも設置されていた。

朴高麗大学校図書館長と当館の浦川館長との会談では、前回に引き続き両館のより発展的な協力関係の構築について話がおよび、今回の訪問後、人的な交流を含んだ両館の協力関係に関する覚書を取り交わそうということで意見が一致した。

国会図書館、国立中央図書館

韓国では、国会および国会議員の調査をサポートする国会図書館と、国の中央図書館的機能を担う国立中央図書館とがある（ちなみに日本の国立国会図書館はこの2つを併せ持った図書館である）。国立中央図書館では国の司書制度のセンター的な機能も備えており、全国の司書を対象としたリカレント教育がなされている。

梨花女子大学校図書館

資料のデジタル化を積極的に行っている図書館として有名であり、古書を含めて20万ページを電子化してきている。24時間利用できる閲覧室が用意されており、女子大学ということもありセキュリティー上の観点から夜12時から朝5時までは入室・退室ともできなくしているとのことだった。

高麗大学校図書館との図書館間相互協力に関する覚書

朴高麗大学校図書館長との相互訪問を経て、翌年2002年3月、当館と高麗大学校図書館との間で図書館間相互協力に関する覚書を取り交わした。その後、三浦総合閲覧課長が同館を訪問し実際の運用の詳細を詰めることにより、両館の新たなサービスが始まることになった（詳しくは次の三浦課長の文章をご参照のこと）。

高麗大学校図書館

ILL（図書館間相互協力）の拡大

－早稲田大学で所蔵していない資料の利用－

三 浦　　育 子 (総合閲覧課長)

近年、大学においては図書館予算も減少を免れておらず、図書館では他の費目予算を削り、図書予算をなるべく減少しない工夫を重ねて来ました。また、データベース資料購入の増加ともあいまって図書購入について大きな転換を迫られています。

図書館ではWINEシステムの構築にともない学内資料の共同利用も積極的にすすめてきました。現在では、ほとんどの資料が所蔵箇所だけでなく学内の利用者に対して利用可能となっています。

また、この数年、図書購入の減少に対処する方策としてILLの拡大に力を入れてきました。中央図書館でのILL業務の担当箇所である総合閲覧課で、この間、他大学との相互協力を通じて資料の共同利用を推進してきています。中央図書館の他、理工学図書館、所沢図書館でもILL業務を行なっていますが、この2館は専門分野が特定されており、以前から他大学との相互利用は積極的に行われています。中央図書館でも、学内での資料の共同利用が進んだこともあり、ILLの積極的利用（積極的提供も含めて）に踏みきることができるようになりました。

これまでも本誌、他でご紹介しましたように、中央図書館ではこの数年以下のようにILLの拡大を図っています。

1998.11	OCLC-ILLシステムを利用しARL-JAPAN Project参加館との迅速なILL（海外）を開始。（本誌No.61参照）
2000.1	NACSIS-ILLシステムの利用開始。（国内）
2000.4	学部・大学院学生の東京23区内の大学図書館からの複写取寄せを可とする。
2001.4	同志社大学と慶應義塾大学と同様の相互協力を開始。
同	慶應義塾大学、同志社大学との間ではIDカード所持の学生・教職員には紹介状を不要にしお互いに自館と同じような図書館を利用可能とする。

今回は今年度４月以降の拡大事項を３件ご案内します。

１．高麗大学校図書館との相互協力協定

大学は多くの海外の大学と学術交流協定を結んでいますが、これまで図書館の相互利用についての協定を別途結ぶことはなくお互いに図書館利用の際の便宜を図る程度でした。

昨年秋、学術交流協定校のひとつである韓国の高麗大学校から積極的な図書館相互利用に対する申出があり、今年３月「図書館相互協力覚書」を交わしました。その後担当箇所間で協議のうえ「実施要領」をまとめ、このたび実施の運びとなりました。（詳しくは本誌「韓国図書館訪問記」参照）

これまで資料の確認などもできにくかったためハングル資料のILL申込みは非常に少なかったのですが、これを機会に利用が増えることを願っています。

実施は以下のような要領で行ないます。

①この１年間は双方の図書館が費用負担し、利用者には無料で資料提供する。

②早稲田側からは原則として自館が所蔵する日本語資料を、高麗側からは自館が所蔵するハングル資料を提供する。（ただし国内で出版された外国語資料も対象とする）

③図書の貸出は同一人に対して１回３冊まで、利用は図書館内に限る。

④複写は同一人に対して１回10件以内の受付とし、その全部が届いた後、次の申込みを受付ける。

⑤資料は双方でOPAC検索をおこない、表示された表記での申込みを行なう。

高麗大学校には中央図書館（新館、旧館）、科学図書館、医学図書館、郊外に瑞倉図書館があり、図書約174万冊、逐次刊行物約9,800タイトルを所蔵しています。

OPAC（On-lineで公開されている蔵書目録）は、ハングルが表示可能な端末からしか検索できませ

んが、レファレンス・カウンター内の情報検索室に設置の高麗大学校から寄贈された端末で検索可能です。プリンターも設置しましたので、ご利用希望の場合はお申し出ください。
http://kulib.korea.ac.kr:8080/TGDL/total_frame.html

日本のNACSISにあたるKERISの検索もできますが、高麗大学校に所蔵されていない場合は所蔵館に通常のILL申込みを行なうことになります。

早稲田大学での受付窓口は中央図書館レファレンス・カウンターです。理工学図書館、所沢図書館では受付けておりませんのでご注意ください。

２．国内ILL－図書の借用対象館が増えました

これまで図書の借用は慶應義塾大学、同志社大学の他に協定を結んでいる６国立大学からしかできませんでした。４月からNACSIS参加館に対して早稲田大学中央図書館からも図書の貸出を行なうことにより、借用を可能にしました。ただし１人１回のお申込みは３冊以内とさせていただきます。中央図書館から他大学への貸出は研究図書に限り１館に３冊以内、全体で同時に50冊以内としています。借用には往復の郵送料がかかります。早ければ１週間以内に届きますが、通常は２週間くらいかかります。利用できる期間は、相手館により異なります。ILL申込みについては、ホームページ「利用案内－利用方法、サービス案内－学内の方－学外図書館の所蔵資料の利用」をご参照下さい。
http://www.wul.waseda.ac.jp/guide/ref/gakugairiyo.html

借用図書は館内のみでの利用となります。教員の方も研究室までしか持ち出せません。破損や汚損のないよう取扱いには十分ご注意ください。

３．海外ILL－手続きの簡素化を図りました

OCLC－ILLシステムの利用はこれまでARL（Association of Research Libraries）Japan Project参加館（北米26館）のみに特化していましたが、それ以外の機関とのILLもこのシステムを利用した方が処理が簡単で速いため、見直しを図ったものです。北欧やアジア諸国、また早稲田から依頼の増えているドイツのG öttingen大学なども最近OCLCに参加しており、効果が期待できます。また、OCLC-ILLシステムを利用することにより状況確認がシステム上で可能となるためお問い合わせに対しても迅速な回答ができるようになります。

OCLC：米国Online Computer Libarary Center 早稲田大学は日本で唯一書誌データを提供しています。現在82か国、約41,000館が参加しています。

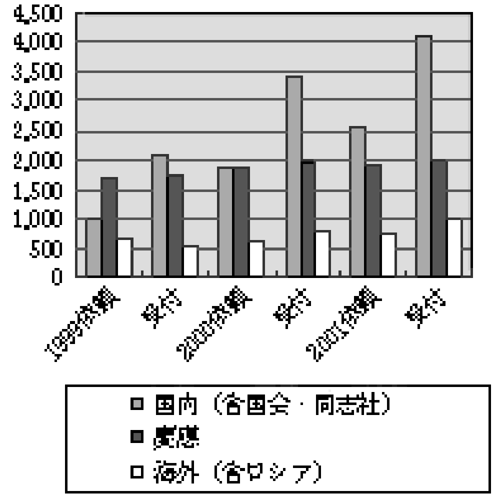
全文入手可能なデータベースの確認を

図書館やその他の箇所が契約したデータベース（学内環境からのみ利用可）で論文の全文入手が可能なものがあります。ILLお申込みの前にまず"Fulltext Online Journal List"（試行版）http://www.wul.waseda.ac.jp/DOMEST/foj/で雑誌については検索をされることをお勧めします。

申込み方法の簡素化をはかります

ホームページ上に「ILL申込み用紙」を掲載し、図書館にお出でにならないでも申込みが可能になるようただいま準備中です。ただし、E-mailを使用したご連絡が必要となりますので、まだE-mailを使用されていない方は、Waseda-netへの移行を機会に是非、ご登録のうえご利用下さい。

最近３年間のILL利用数の推移



＊2000.1－　NACSIS-ILL開始
＊2001.4－　同志社大学との協定によるILL開始
＊2001.4－　23区内からも取寄せ可に

2001年度システム統計

学 術 情 報 課

本稿では、早稲田大学図書館における昨年度のシステム関係の統計データを挙げ、必要な説明と分析を加える。これにより、図書館システム等に係る利用および業務動向の一端を紹介したい。

１．WINE登録レコード数

表１は、「早稲田大学学術情報検索システム」（WINE : Waseda University Scholarly Information Network System）へのレコード種類別の登録状況を示す。2001年度は合計で約41万件を登録し、昨年度末現在では500万件を超える膨大なデータベースを構成している。

主要部分を成す書誌および所蔵レコードも年々順調に増加し、現在の登録数から見ても、我が国有数の図書館システムに数えられる。

なお、1999、2000年度にわたり利用者レコードが減少したのは、利用規定の平準化等に伴い中央およびキャンパス図書館等の利用者レコードを統合したためであり、一方昨年度に増加したのは、西早稲田キャンパス各学生読書室のWINEへの参画に伴い、その利用者レコードを別途生成したためである。

表１　WINE登録レコード数

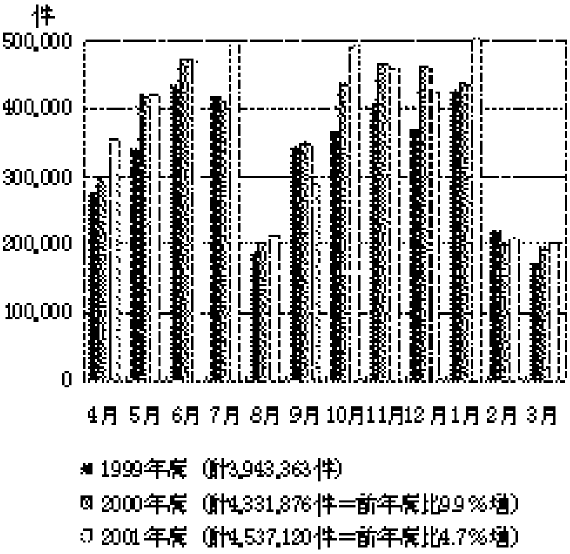
（件）

レコードの種類	1999年度増加数	2000年度増加数	2001年度増加数	2001年度末登録数
書誌	73,892	80,130	84,822	1,626,248
発注	14,608	2,912	9,830	24,837
チェックイン	8,701	6,518	15,188	30,651
典拠	12,181	5,830	12,847	30,872
所蔵	126,243	205,666	263,125	3,212,250
利用者	−6,210	−50,807	24,177	122,855
コース	41	33	40	115
合計	229,456	250,282	410,029	5,051,828

２．WINE検索数

図書館システムの検索数は、図書館の利用状況を知る重要な指標である。図１に示す通り、総数は着実に増加傾向にある。月別の増減は、毎年類似したパターンを描くが、昨年度は大学暦変更の影響で、例年低下する７月に増加する一方、９月は比較的少なかった。

図１　WINE検索数



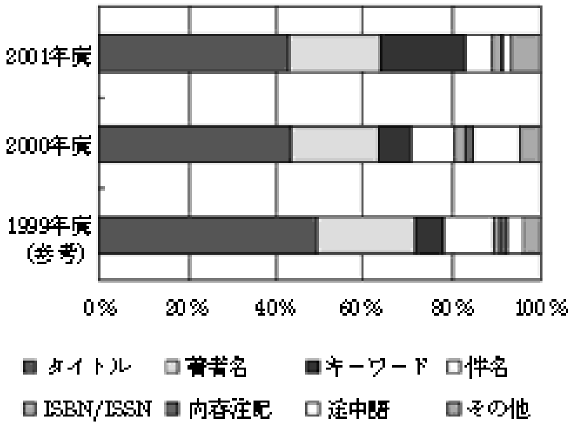
３．WINE検索使用索引比率

WINEには、検索項目が数種類提供されているが、その実際の使用割合の推移をグラフ化したのが図２である（1999年度は、不明の時期があるため参考データ）。

昨年度は、タイトル、著者名等、キーワードの３索引で検索合計の83％に達した。特にキーワードの急増が顕著だが、これは内容注記や途中語検索が、昨年度中にキーワード検索に統合されたことも一因である。

ただ、件名やタイトルの比率も漸減傾向にあり、総体的にキーワード検索の使い勝手が利用者の間に認知され、親しまれてきたと言えよう。

図２　WINE検索使用索引比率



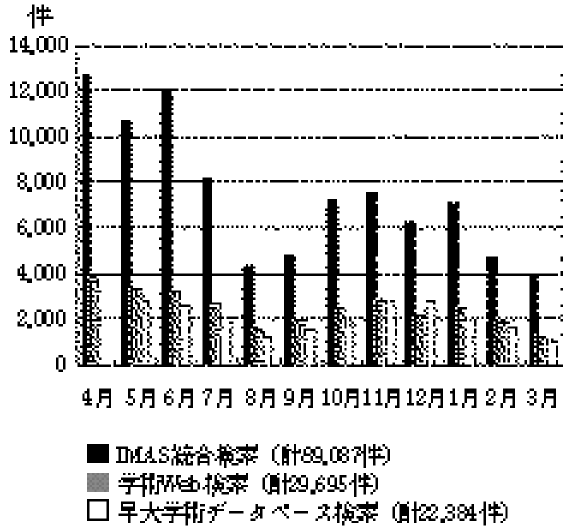
４．IMASアクセス数

当館では、「統合マルチアーカイビングサービス」（IMAS : Integrated Multi-Archiving Service）として、統一インタフェースから多様なメディアを統合的に検索する仕組みを提供している。

図３では、例としてIMASを横断的に検索した場合と、IMASの中の個別の学術Web検索（学内外の規定の学術的Webページ）や早大学術データベース検索（文学部、演劇博物館、大学史資料センター作成のデータベース）に関する実績を示す。

統合検索は一般的・包括的であるから、IMASに習熟するにしたがい、むしろ個別に検索する割合が相対的に増える傾向が伺える。

図３　IMASアクセス数



５．Webアクセス数

図書館のWebページは、各種お知らせ、利用案内、リンク集、DB・電子ジャーナルおよび各館のページ等から構成されるが、2000年度は計243万件、2001年度は計401万件のアクセスがあった（ただし、2001年度は学内のプログラム実験による約40万件のアクセスを含む）。

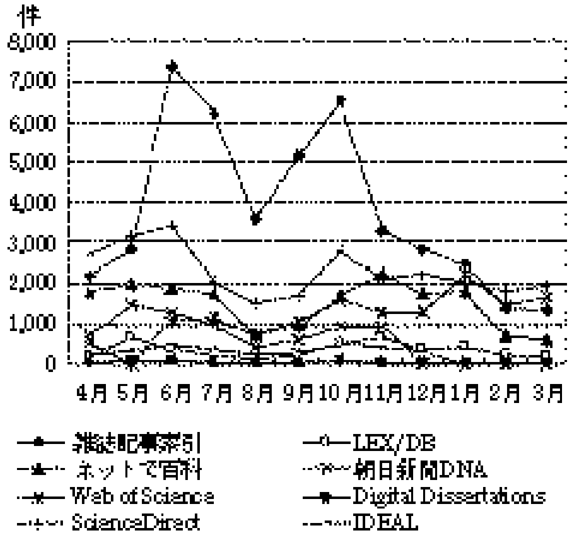
６．データベース等アクセス数

オンラインのデータベースや電子ジャーナルは、今や紙媒体と並ぶ重要な資料源である。図４は、当館が有料契約しているデータベース等のいくつかにつきアクセス数を調査したもので、凡例の上４つは日本語資料、下４つは外国語資料である。

雑誌記事索引が突出して利用された時期を別にして、どのデータベースもそれぞれ年間で安定した利用動向を保っている。ただ、８データベースを合わせて、教職員・学生１人当たりのアクセス数は年間2.1件となり、まだ期待される水準に達しているとは言い難い。

前掲のWINE検索数等の諸統計を見ても、潜在的な需要は大きいと思われ、今後は広報活動の強化とともに、学内ニーズを的確に把握し、より使いやすい環境・システム作りを図る必要がある。

図４　データベース等アクセス数



WINEへの日本語雑誌データの入力

雑 誌 運 用 検 討 W G

早稲田大学図書館の情報検索システムとして広く利用されているWINEではこれまでも雑誌（逐次刊行物）情報の検索ができましたが、これらのデータは全学の所蔵を十分反映するものではなく、中央図書館、戸山図書館、理工学図書館、所沢図書館などが所蔵する一部の雑誌に限られていました。そのため、学内の雑誌を検索するのにさえ国立情報学研究所の学術雑誌総合目録データベースNACSIS Webcatを参照しなければならず、利用者の皆様にはたいへんな不便をおかけしてきました。

このような不便を改善し全学の雑誌情報を一元的に検索できるようにするため、学術雑誌総合目録データベースから抽出した早稲田大学所蔵の日本語雑誌データを本年２月にWINEへロードして雑誌情報の充実を図りました。ロードされた雑誌のデータ件数は以下の通りです。(　)内は中央図書館分のデータ件数。

新規データ件数	12,328（4,650）
修正データ件数	2,997（2,382）
合計	15,325（7,032）

データが入力された箇所は、すでに入力が完了している戸山図書館以外（比較文学研究室は除く）の全学の図書館、図書室です。特に、これまで雑誌データが未入力であった西早稲田キャンパスに所在する政治経済学部、商学部、教育学部、社会科学部の各教員図書室、法律文献情報センター、現代政治経済研究所図書室、教育学部教育心理文献資料室、同数学資料室、演劇博物館図書室、ICL語学教育研究所図書室、ICL国際教育センター図書室の雑誌データがWINEに搭載されたことになり、利用者サービスの一層の向上に繋がるものと確信しております。すでに、便利になったとの声も寄せられております。

これらの雑誌データの見方についてはすでに図書館のホームページに利用案内（http://www.wul.waseda.ac.jp/opac/aboutw/range-j.html）を掲載していますが、ここで改めて若干説明をしておきます。

まず、タイトル検索で雑誌名を検索すると、検索結果画面に雑誌の所蔵情報が四角の枠に囲まれて表示されます（図１）。そこには所蔵箇所（配架場所）、請求記号、所蔵巻号（図書館所蔵）、最新号の表示、その他の情報（種別）などが示されています。さらに、この枠の左端にある「最新の受入」という部分をクリックすると、「最近の受入状況」の画面が現れます（図２）。この画面は簡略な目録と最近号が現在どのような状態にあり利用可能か否かを利用者にお知らせするチェックイン情報です。四角の枠内に号単位でカバー日付、受入年月日、巻号、および以下のような状態を示す英単語が表示されます。

TO BIND	製本中のため利用不能。
ARRIVED	到着済みで利用可能。
CLAIMED	到着遅れにつき督促中。
LATE	到着が遅れています。
EXPECTED	今後の受入予定。

以前から中央図書館と戸山図書館のチェックイン情報はWINEで提供されていましたが、今回の雑誌データのロードを契機にそれぞれの図書館・図書室でチェックイン情報の作成が検討されておりますので、近いうちにはより充実した雑誌所蔵情報をWINEで見ることができるようになるでしょう。

今回のロードは日本語雑誌データでしたが、今年度末までには洋雑誌データが同様な方法で大幅に追加、更新される予定です。和洋雑誌データの充実によって学内雑誌がこれまで以上に有効に利用されるようになれば幸いです。

（文責：雪嶋宏一）

タイトル	Aera
出版事項	東京：朝日新聞社 トウキョウ：アサヒシンブンシャ tokyo : asahishinbunsha

種別	3階雑誌フロア(NNの単書架) ※2000年より最新4カ月分のみ保存
サイ 1742 配架場所	中央 雑誌
図書館所蔵	v.4 no.1-v.12 no.53(1991-1999)
最新の受入	2002 5月 27 15:21
配架場所	現代政経研図書室
図書館所蔵	0-14,15(1-11)(1988-2002)+
種別	最近号はNNの単書架(図書館入口)配架
配架場所	所沢図書館
図書館所蔵	最近号のみ

配架場所	請求記号	現況
中央 雑誌(本庄)	サイ 1742 1 v.4 no.1-9(1991.1-2)	館内利用のみ
中央 雑誌(本庄)	サイ 1742 2 v.4 no.10-18(1991.3-4)	館内利用のみ
中央 雑誌(本庄)	サイ 1742 3 v.4 no.19-26(1991.5-6)	館内利用のみ
中央 雑誌(本庄)	サイ 1742 4 v.4 no.27-35(1991.7-8)	館内利用のみ
中央 雑誌(本庄)	サイ 1742 5 v.4 no.36-46(1991.9-10)	館内利用のみ
中央 雑誌(本庄)	サイ 1742 6 v.4 no.47-54(1991.11-12)	館内利用のみ
中央 雑誌(本庄)	サイ 1742 7 v.5 no.1-14(1992.1-3)	館内利用のみ
中央 雑誌(本庄)	サイ 1742 8 v.5 no.15-26(1992.4-6)	館内利用のみ

図１　詳細書誌画面

タイトル	Aera
請求記号	サイ 1742　配架場所 中央 雑誌
図書館所蔵	v.4 no.1-v.12 no.53(1991-1999)

最近の受入状況:

2002 2月 4 **ARRIVED** on 02-01-28 15:5	2002 2月 11 **ARRIVED** on 02-02-04 15:6	2002 2月 18 **ARRIVED** on 02-02-13 15:7	2002 2月 25 **ARRIVED** on 02-02-18 15:8	2002 3月 4 **ARRIVED** on 02-02-28 15:9	2002 3月 11 **ARRIVED** on 02-03-04 15:10
2002 3月 18 **ARRIVED** on 02-03-11 15:11	2002 3月 20 **ARRIVED** on 02-03-14 15:12 臨時増刊	2002 3月 25 **ARRIVED** on 02-03-18 15:13	2002 4月 1 **ARRIVED** on 02-03-25 15:14	2002 4月 8 **ARRIVED** on 02-04-01 15:15	2002 4月 15 **ARRIVED** on 02-04-08 15:16
2002 4月 22 **ARRIVED** on 02-04-15 15:17	2002 4月 **ARRIVED** on 02-04-22 15:18 4/29-5/6	2002 5月 13 **ARRIVED** on 02-05-07 15:19	2002 5月 20 **ARRIVED** on 02-05-13 15:20	2002 5月 27 **ARRIVED** on 02-05-20 15:21	2002 6月 3 **EXPECTED** on 02-05-28 15:22
2002 6月 10 **EXPECTED** on 02-06-04 15:23	2002 6月 17 **EXPECTED** on 02-06-11 15:24	2002 6月 24 **EXPECTED** on 02-06-18 15:25	2002 7月 1 **EXPECTED** on 02-06-25 15:26		

図２　チェックイン情報画面

【表紙写真】

鐘岱愛鷹之記(部分)

藤邦基賛　安政4年(1857)3月　紙本彩色　1舗　ヲ10　1271

出雲松江藩主松平斉貴（なりたけ、鐘岱，1815-1863）が愛玩していた鷹の図。斉貴は多芸多趣味であったが、なかでも鷹狩を好んだことで知られる。上部には鷹の名前(「加屋堀」)や、これまでの狩りの成果などが詳細に記されている。

No.68表紙写真キャプションに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

(正)『魔風恋風』　　(誤)『摩風恋風』

研究書庫の資料再配置

図　書　課

図書館では、中央図書館研究書庫（地下１階・2階）の図書の再配置を、2002年３月の閉館期間に実施しました。

「ふみくら」No.67（2001.4.25）でお報せいたしましたとおり、中央図書館地下３階に自動化書庫を設置し、2001年度より、比較的利用頻度の少ない旧分類の洋書（A～Z）の一部を、順次自動化書庫へ収納してまいりました。現在までに、約10万冊余を地下３階自動化書庫におさめています。

これにともない、このほど、以下のような手順で研究書庫全体の再配置・整備作業をおこないました。

①地下３階に収納した旧分類洋書の抜かれたあとの空きスペースをつめる。地下２階に配架されていたE（経済）F（文学）については、できるだけ地下１階の集密書架へ寄せる。

②地下１階日本語図書の書架を、これまで原則として６段使用だったものを７段（最上段）使用とし、旧分類日本語図書ワ（法律）ヨ（経済）リ（歴史）ヘ（文学）をできるかぎりつめる。

③上記②によって得られた空きスペースに、地下２階に配架されていた文庫（會津文庫、千[illegible]文庫、福島文庫、和田繊維文庫）およびハングル図書を移動する。

とりあえず、この作業によって、地下２階書庫にかなりのスペースが創出され、年間３～４万冊のペースで増加する和洋新分類図書の今後の展開を可能にしたということができます。

これにより、ほぼ原則として地下１階書庫に旧分類、地下２階書庫に新分類（NDC分類）の図書が置かれることとなりました。例外として、チ（芸術）は地下２階にのこっていますが、これはその近くに図録などの大型本コーナーがあるため、資料利用の利便性を考えて現状のままとしました。

新しい書庫配置図は書庫入口に掲出してあり、カウンターにはプリントしたものが置いてありますのでご利用ください。また、図書館ホームページ画面からもご覧いただけます。

７段使用とした地下１階書庫の日本語図書は、スペースの有効活用のため、つめられるだけつめこんだというのが現実ですが、必然的に最上段の本は、やや取り出しにくくなりました。書庫内に適宜踏み台を配置しておりますが、気をつけてご使用いただきたいと存じます。

現在図書課では、地下２階新分類書架の展開を少しずつ広げる作業をしています。

2002年度は、各キャンパス図書館（高田記念図書館、戸山図書館、理工学図書館、所沢図書館）からの移管図書を、地下３階自動化書庫に順次収納する作業を予定しています。

地下３階自動化書庫の運用は現在のところ大変スムーズで、館内の端末画面から請求すれば４～５分以内に１階カウンターに本が到着します。利用冊数も収納冊数に比例して増加していますが、現在までのところ、大きな問題はありません。

地下３階自動化書庫に収納した旧分類洋書のうち利用頻度の高いもの、利用者からとくに要望のあった資料につきましては、地下１階書庫に戻すようにしております。しかしそれにも限りがありますので、少ないスペースの有効利用という観点から、利用者のみなさんにご協力をお願いしたいと存じます。

なお、2002年６月現在の配架は、次ページの通りですが、本誌発行時には地下2階の「ZB書誌・書目」が「Q統計」の後ろに配架されます。

♪請求記号について♪

新館移転(1991年1月)以降に収集された図書にはNDC(日本十進分類法)分類が採用されています。
例 950 00064(日本語図書)
　 F892 00025(外国語図書、先頭に'F'が付く)

2001年度下半期　展覧会報告

展　示　部　会

挿絵　～物語を彩るイメージの世界～

すっかり恒例となった“鴨川市・早稲田大学交流事業”の一環としての図書館企画展示も今年（2001年度）で５回目を迎えた。今回はかねてからの予定どおり、５月のオール早稲田文化週間の折に開催し、好評を博した「挿絵～物語を彩るイメージの世界～」を10月27日(土)～11月４日(日)にわたって鴨川市立図書館集会室で開催した。

展示内容等については展示部会の前回報告中の「挿絵展」の項を参照されたいが、最終的には入場者も688人を数え、天候に恵まれなかったわりには、例年並の入場者を得られたことは、やはりここでも内容の目新しさが好評であったと言えよう。会期中の後半の土日(11月３、４日)には、これも例年どおり早稲田から資料解説者（藤原）が赴き、来場者に簡単な資料解説を行った。５回目ともなるとすっかり常連の人たちもおり、今回もこの２日だけで250人以上が会場に足を運んでくれた。その方たちの期待に展示内容、解説ともにどれだけ応えられたかわからないが、なんともありがたいことである。

なお、鴨川での展示は、展示ケースの問題（壁面のケースがない、平置のものも少ない）もあって展示できる資料が限られること、５回行ったことによりある程度の成果が得られたこと、さらには遠隔授業やユニラブといったその他の学内諸機関が開催する交流事業の充実などから今回でひとまず終了とし、今後は図書館だけでなく、會津記念博物館、演劇博物館主催による各館所蔵資料の展示の可能性も含め検討課題とした。お世話になった鴨川市立図書館、鴨川市企画振興課のみなさんに改めて感謝の意を表したい。　（藤原秀之）

漂流　～異界を見た人々～

2001年12月12日(水)から2002年１月26日(土)まで、中央図書館２階展示室において標記の展覧会を開催した。

今回のテーマは「漂流」。鎖国下にあった江戸時代に、船が難破してロシアへ漂着した大黒屋光太夫をはじめとして、心ならずも異国へ漂流した人々、あるいは逆に日本に流れついた異国の人々についての資料を約50点展示した。

おもな展示品は、光太夫のロシア漂流に関する資料『北槎聞略付図』『漂民御覧之記』や、アメリカに漂着して新知識を身につけたジョン万次郎に関する資料『漂客談奇』など。

さまざまな漂流事件をとりあげたので、流れがわかりやすいように、オランダ船リーフデ号の漂着した1600年から日米修好通商条約に調印した1858年までの関連事項をピックアップした「漂流年表」を作成して参考資料とした。

観覧者の感想をみるとたいへん好評で、「当時の人たちの世界観が垣間見られて面白かった」「１つのテーマで多ジャンルの展示品を集められる展覧会はおもしろい」「当時の世界地図が興味深かった」など多くの感想が寄せられた。

蘭学資料など今まで何度も展示してきているおなじみのものも出しているが、「漂流」というテーマで切り口をかえて展示すると、また見方がかわっておもしろいものになったと思う。

会場に置いたポスターと展示目録（1,000部）はほぼなくなった。

また今回は「タイトルにひかれて入った」とい

「漂流」展

う意見が多数みられ、ポスターのデザインやタイトルネーミングが重要であることがよくわかった。

（大坪ゆき）

生誕150周年記念　小野梓展

小野梓（1852～86）の名は、東京専門学校創立の功労者として、早稲田大学の関係者はみんな知っている。しかし早稲田の外での知名度となると、いささか弱い。33歳10か月という若さで他界したこともあるであろう。小野の生誕150年をにらんで１年以上前からはじめた大学における企画会議の席上では、もっと小野梓という人を一般に知ってもらうため、彼を主人公とする映画やテレビドラマの制作をはたらきかけるなどの案も出されたが、実現には至らなかった。やはり知名度という点では福澤諭吉などに遠く及ばない。

小野先生の遺徳を顕彰する大学の公式記念事業のなかで、大きな比重を占める記念展覧会の実務を図書館が担当したのは、まあ当然のなりゆきであった。小野梓の関係資料の大半は図書館にある。もっとも明治14年政変や立憲改進党結成、東京専門学校創立といった激動の時代を生きた小野自筆の日記『留客斎日記』や、小野畢生の主著『国憲汎論』の原稿など主要な資料はじつは国会図書館にある。小野がはじめた書店「東洋館」を実質的に継承した冨山房の坂本嘉治馬の子孫から国会の憲政史料室へ寄託されたものだ。

国会図書館からの借用資料も含めて、會津八一記念博物館一階展示室に、小野梓の生涯を追う形で約80点の資料をならべた。あらたに小野先生のご遺族から寄贈された小野所用の印が花を添えた。立派な図録も編纂刊行され、３月10日、新暦での小野梓の生誕の日にオープニングセレモニーが行われた。あいさつに立った奥島総長は「早稲田大学は小野梓先生の精神をうけつぐ梓立（しりつ）大学である」との言葉を力強く述べた。

会期は４月25日まで、盛況であった。その後、図書館４階ラウンジで、「オール早稲田文化週間」の期間中もう一度展示を行った。　（松下眞也）

描かれた生きものたち　～館蔵資料に見る動植物図譜～

卒業式、入学式を含んだ３月20日(水)から５月２日(木)にかけて、中央図書館展示室において図書館で所蔵するさまざまな資料に描きあらわされた動物や植物を紹介する展覧会を開催した。

江戸時代に日本へもたらされた動物図譜として有名な『ヨンストン動物図説』、オランダの植物学者ドドネウスの『草木誌』の模写図をはじめ、主に江戸時代の資料に表現された動植物画を会場いっぱいに並べ、大変賑やかな印象を残す展示となった。「花鳥風月」という言葉を想い起こさせる優美な色合いの花鳥画も出品されたが、そのほかに両生類や爬虫類、昆虫、魚類の精密な描写図もあり、グロテスクとひとことで捨てきれない興味深い雰囲気と細密で卓抜な筆致を感じさせる絵画も数多く展示された。また江戸期、漂流民からの聞き取り調査をもとに著わされた『環海異聞』には、ロシアの風俗・言語・技術などの記載とともに、当時の珍しい生きものの様子が描かれている。これらの動物の形体も聞き描きであるために、滑稽であったり不気味な文様が施されていたりして、けっして科学的な正確さはないのだが、絵としてのおもしろさは抜群である。

展覧会場に置かれた「ノート」へ学生が率直な意見や感想を書きこんでいた。その中には、多種多様な動植物の絵画、挿画のある書物などを図書館が多く所蔵していることに対する驚きや賞賛の声が少なからず認められた。

本展は研究者や専門家向けというよりも学部学生に馴染みやすい展覧会であったといえよう。一般学生の知的興味を刺激し研鑽を積む「きっかけ」を与える企画も必要である。　（岩佐直人）

「描かれた生きものたち」展

政経・法・教育学部学生読書室のWINE参入と利用の共通化
－箇所からの報告－

・政治経済学部学生読書室　　　　　　　　藤井　良子

2002年４月８日朝、担当者によるWINEの立ち上げ操作が行われ、まもなく最初の利用者があった。カウンター内には多少の緊張が流れ、スムーズに貸出手続が終了すると安堵の空気が流れた。政治経済学部学生読書室の新世紀への幕開けを思うと共に昨年６月からWINEシステム参入に向け準備を進めてきた遡及入力やバーコードの貼付作業などが脳裏に浮かんだ。図書のデータをこれまでの箇所システムから全学的図書館システムのWINEに統一できるようになったことは利用者にとっても係にとっても最大のメリットである。

スタートから２ヶ月、WINE参入による利用者数は飛躍的に増えたとはまだ感じないが、他学部学生の利用や問合せが増加傾向にあり、特に予約や貸出延長手続に対する質問が多く見受けられる。また、６月３日からは全学対象に貸出が開始されるので借用希望者の増加が期待される。少なくとも情報公開が叫ばれる昨今、学部が独自に管理してきた蔵書を全学の学生やOB等々が気軽に検索できるWINEへの参入は、まさにエポックメーキングなことであると思う。

課題としては、共通利用の規則が設定されているが、政治経済学部学生読書室が当学部学生に対してのみ行っているサービスもあり、今後の検討材料となっている。不慣れなため戸惑うこともあるが、他学部学生読書室や各図書館の協力を得て利用者により良い学生読書室の環境を提供できるようスタッフ一同努力して行きたいと考えている。

・法学部学生読書室　　　　　　　　丸山　里恵

法学部学生読書室は、2001年９月よりWINEシステムへ移行し、間もなく10ヶ月が経とうとしています。担当スタッフとしてまず感じたことは、法学部生だけでなく他学部生の利用者数、貸出冊数の増加です。４学部（政・法・教・社）共同利用になってからは、文学部や人間科学部等の学生からの貸出希望も多く、６月３日からの全学生への貸出開始はスタッフ側としても待ち望んでいたことでした。また以前は、法学部独自の検索システムとWINEシステムという２種類であった為、WINEのみの検索で全学の資料を探せることや自宅からの検索が可能となったことに満足の声が多数寄せられました。更に、今までは他学読の所蔵図書は検索出来なかった訳ですが、他学部の収書状況が一目で分かる上に、貸出状況も知ることが出来、利用者にその場で的確なアドバイスをすることも可能となりました。

また当読書室は、主に法律に関する図書を所蔵しており、法学部生の学習に役立つように、やさしい入門書からやや高度な学術書まで幅広く収集するよう努めています。WINE移行に伴い、他図書館との分担収集をいっそう進め、今後も法律系図書室としてさらなる飛躍をしていきたいと考えておりますので、どうぞお気軽にご利用下さい。

・教育学部学生読書室　　　　　　　　相津　ヤスコ

教育学部学生読書室は、2001年９月からWINEに参入しました。利用者からの反応は、「学読へ足を運ばなくても蔵書検索や予約・延長ができる」「他の学読・図書館の所蔵状況も一度に知ることができる」「中央図書館などと同じシステムなので使いやすい」など好評です。目録作成は、これまで「丸善ちょいす君」等のデータを加工して利用してきましたが、今はWINEの書誌に所蔵データを付加するだけとなり、作業が簡略化されました。しかし、WINEの操作権限に制約があり、バックデート返却ができない、利用者データを独自に作成できないなど、若干の不便を感じることもありますが、他の学読との協力体制のもと、順調に運営しています。社会科学部とは、同じ14号館ということで、既に1998年９月から相互貸出を行ってきましたが、WINE参入後は、他学部学生の入館者数も増加しました。貸出冊数は、蔵書構成の都合上（教育学をはじめ、文学、語学、数学や理科系科目の図書が中心となっている)、社会科学系学部の学読どうしほどの伸びはないようですが、6月からの全学開放後は、これまで貸出希望が寄せられていた理工学部や文学部学生等への貸出冊数の増加が見込まれています。

高額資料選定結果　2001.9－2002.3

資　料　委　員　会

大槻玄沢書簡
シーボルト宛　文政10年(1827) 3 月　1 巻
［申　請　者］図書館図書課
［価　　　格］￥1,836,630
［取 扱 書 店］一誠堂書店
江戸時代の蘭学者大槻玄沢（1757～1827）がシーボルトに宛て、通詞馬場為八郎を介して出した手紙。蘭学についての教示に感謝する内容。この文政10年に有名なシーボルト事件が起きている。東京古典会入札会（01.11）において落札したもの。

祇園社関係文書　　33通
［申　請　者］図書館図書課
［価　　　格］￥1,836,330
［取 扱 書 店］一誠堂書店
南北朝時代から戦国時代にかけての祇園社（現八坂神社）の関係文書。当館所蔵「荻野研究室収集文書」のなかに6巻108通の祇園社関係文書があり、それとの関連において重要な研究史料である。東京古典会入札会（01.11）において落札した。

協調会資料　日本社会労働運動資料集成
1920年代～1930年代　マイクロフィルム版
［申　請　者］鈴木宏昌(商学部)
［共同申請者］石田眞(法)　白木三秀(政経)
大森眞紀(社学)　大日方純夫(文)
［価　　　格］￥2,300,000
［取 扱 書 店］紀伊國屋書店
第一次世界大戦直後に設立された「協調会」はわが国の労働・社会政策の中心的存在であった。戦前の労働問題研究には欠かせない資料である。

好色日用食性昔物語　江戸時代版本　5 冊
［申　請　者］中島隆(教育学部)
［共同申請者］東郷克美・堀誠・松澤徹・村田安穂・堀切実・津本信博・中野幸一(教育)
谷脇理史・日下力・田中隆昭・雲英末雄（文）
高橋世織（政経）
［価　　　格］￥3,990,000
［取 扱 書 店］思文閣
柳亭種彦の『好色本目録』に名のみ伝えられ、これまで伝本が確認されていなかった稀覯書。貞享～元禄年間の好色本の典型的形態を持つ貴重な資料である。上方で製作され江戸で刊行された点も興味深い。館蔵の浮世草子コレクションをさらに充実させる資料。

明月記断簡　藤原定家自筆　1 軸
［申　請　者］兼築信行（文学部）
［共同申請者］海老澤衷（文）
［価　　　格］￥5,000,000
［取 扱 書 店］八木書店
鎌倉時代の歌人藤原定家（1162～1241）自筆の日記『明月記』建保元年11月11日・同12日条の断簡。当図書館には定家筆『長秋記』を所蔵しているが、『明月記』の定家自筆はこれまで収蔵されていなかった。

PLOTINUS. Opera. [Translated with a commentary by Marsilio Ficino]. Florence, 1492.
（プロティノス著作集）1 冊
［申　請　者］酒井紀幸（文学部）
［共同申請者］小林雅夫・丸野稔・宮城徳也（文）
［価　　　格］￥4,649,400
［取 扱 書 店］紀伊國屋書店
ギリシアの哲学者プロティノス（205～269）のラテン語への翻訳。コジモ・デ・メディチの庇護のもとにフィチーノ（1433～1499）によってなされたもの。わが国では現在まで、本書の所蔵がまったく確認されておらず、資料的価値はきわめて高いといえる。

図書館日誌

11.12　中華民国司法院副院長来訪
11.13　オークランド工科大学総長来訪
11.14　韓国国会図書館一行来訪
11.15　慶熙大学校（韓国）図書館員来訪
11.19　ハルピン工業大学副校長来訪
11.20　聖アンナ高等研究院（イタリア）一行来訪
　　　ロンドン大学ベッドフォード図書館館長来訪
11.26　北欧シンポジウム参加者一行来訪
11.28　亜州大学校（韓国）訪問団来訪
11.30　図書行政懇談会（第二次）第 6 回開催　於中央図書館会議室
12. 3　図書館協議員会（第 2 回）開催　於国際会議場第三会議室
　　　オクラホマ大学図書館館長来訪
12. 5　在日アイスランド共和国特命全権大使来訪
　　　ワシントン大学図書館員来訪
　　　国際交流基金在外邦人日本語教師研修者一行来訪
12.10　ハバナ大学学長来訪
　　　全米ロースクール協会副会長来訪
12.11　北京大学常務副校長来訪
12.12　「漂流」展　於中央図書館展示室（～1.26）
12.19　図書行政懇談会（第二次）第 7 回開催　於国際会議場第三会議室
12.21　高麗大学校副総長来訪
　　　私立大学図書館協会東地区部会研究部2001年度研究分科会報告大会開催（国際会議場）
12.22　冬季授業休止期間（～1.7）

2002年

1.18　中国社会科学院法学研究所図書館館長来訪
1.22　コスタリカ大学学長来訪
1.28　シンガポール共和国経済開発庁副長官来訪
1.30　図書行政懇談会（第二次）第 8 回開催　於国際会議場第三会議室
　　　コーネル大学法学部長来訪
2. 5　ウズベキスタン共和国大学学長訪問団来訪
2. 8　春季授業休止期間（～3.31）
　　　所沢図書館蔵書点検（～2.23）
2.13　リヨン大学区長来訪
2.14　フィンランドEU科学学術参事官来訪
2.15　戸山図書館蔵書点検・書架移動（～3.2）
2.16　入試業務協力につき開館時間短縮（中央・高田　～2.24）
2.19　東北大学附属図書館職員来訪
2.20　東北財経大学（中国）金融学院院長来訪
2.22　ロシア外国語文献図書館長来訪
2.25　モスクワ国立大学アジア・アフリカ学部国際交流部長来訪
　　　中央図書館蔵書点検（～3.2）
　　　高田図書館蔵書点検・書庫移動（～3.14）
3. 4　ケンタッキー大学図書館員来訪
3. 6　名古屋工業大学付属図書館員来訪
3.11　理工学図書館蔵書点検（～3.16）
3.13　図書行政懇談会（第二次）第 9 回開催　於国際会議場第三会議室
3.14　モスクワ国立大学附属アジア・アフリカ諸国大学学長来訪
　　　中央図書館消防訓練
3.15　早慶図書館管理職者懇談会
3.20　「描かれた生きものたち」展　於中央図書館展示室（～5.2）
3.19　ウプサラ大学（スウェーデン）学長来訪
3.23　ペトロナス社（マレーシア）副社長来訪
3.25　卒業式につき自由見学（中央図書館、戸山図書館、理工学図書館）
3.26　清華大学校長来訪
　　　日本化学会第81春季年会特別展示「宇田川榕庵『舎密開示』特別展示　於国際会議場 4 階特別展示室（～3.28）
3.28　技術普及促進協会（タイー日）理事来訪
3.29　浙江大学城市学院院長来訪

早稲田大学図書館報　ふみくらNo. 69　2002 年 7 月25日発行　3,500部
発 行 人／浦川道太郎
担当課長／吉田伸一　編集委員会／尾関淳子・高橋晶子・渡邊孝之
発　行／早稲田大学図書館　〒169-8050　東京都新宿区西早稲田１－６－１　☎5286－1652（ダイヤルイン）
ISSN 0289-8926